



取扱説明書

VHF無線電話装置 **IC-VM4525MFT**

この無線機を使用するためには、総務省の無線局の免許が必要です。
免許を受けずに使用すると、電波法第110条の規定により処罰
されます。

この取扱説明書は、別売品のことも記載していますので、お読みに
なったあとも大切に保管してください。



Icom Inc.

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。

本製品は、技術基準適合証明で認定された国内業務用無線電話装置です。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、大切に保管してください。

本製品は、防水構造ではありませんので、雨水などでぬれやすい場所では使用できません。

取扱説明書の内容について

本書に記載の操作や機能は、お買い上げの販売店であらかじめ設定をご依頼いただくことにより使用できる機能も含まれています。

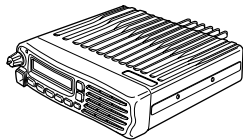
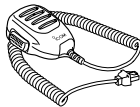
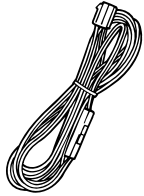
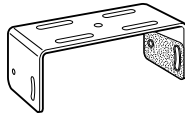
一般的なご使用を想定した内容にしていますので、ご使用になる機能や操作について詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

登録商標

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴは、アイコム株式会社の登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

標準構成品について

無線機本体	マイクロホン	マイクハンガー (取付ネジ式)
		
DC電源ケーブル	アース線 (マイクハンガー用)	スポンジ※
		
車載ブラケット	平ワッシャー	ブラケットボルト
		
	Sワッシャー	取り付けネジ
		
	ナット	タッピングネジ
		
取扱説明書(本書)	保証書	

※ 別売品のUT-109RまたはUT-110Rに使用します。
詳しくは、お買い上げの販売店におたずねください。

もくじ

はじめに	i	3. 設置と接続について	13
安全上のご注意	v	■ 後面パネルと接続	13
1. 各部の名称と機能	1	◇ バッテリーと接続するには	13
■ 前面パネル	1	◇ 安定化電源装置と接続するには	15
■ 表示部	2	■ マイクハンガーの取り付けかた	16
◇ マイクロホンについて	3	■ 車載時の設置について	17
■ プログラマブルキーについて	3	4. 保守について	18
2. 操作のしかた	8	■ ヒューズの交換について	18
■ 電源を入れる	8	■ 無線機の清掃について	18
■ チャンネルの選択	8	■ 故障かな？と思ったら	18
■ 送信と受信について	9	■ 故障のときは	19
◇ 送信についてのご注意	9	5. 別売品一覧表	20
◇ DTMFコードの送信	10	■ 別売品についてのご注意	20
■ 秘話機能	10		
■ プライオリティーチャンネル自動選択	10		
■ ユーザー設定モード	11		
◇ 設定項目	12		

はじめに

運用上のご注意

- ◎安全運転のため、走行中に無線機を操作しないでください。
操作する場合は、必ず安全な場所に停車させてください。
- ◎安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で車両を運転しないでください。
- ◎本体および別売品を取り付ける場合、安全運転に支障がないように(ケーブルなどが絡まらないように)配線してください。
- ◎エアバッグシステム装備車に無線機本体、マイクロホン、および別売品(アンテナ、スタンドなど)を取り付けるときは、このシステムの動作に影響をおよぼす取り付けかたはしないでください。
- ◎本製品をハイブリッドカーでご利用になる場合、ハイブリッドカーに搭載されているインバーターからのノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。
- ◎車に無線機本体、マイクロホン、および別売品(アンテナ、スタンドなど)を取り付けるときは、前方の視界を妨げる場所や運転操作を妨げる場所など運転に支障をきたす場所、同乗者に危険をおよぼす場所などには絶対に取り付けしないでください。
交通事故やけがの原因になります。

自動車に取り付け時のご注意

- ◎アンテナの同軸ケーブルからは電波がふく射されるので、コンピューター(コントロールユニット)およびハーネスから遠ざけ、ハーネスと交差する場合は、ハーネスと直角になるように取り付けてください。
- ◎車のコンピューター(コントロールユニット)に影響をおよぼさないようにするため、無線機、アンテナ、同軸ケーブルなどは次のような電波障害留意機器より20cm以上はなして取り付けてください。
 - エンジン関係：ECI/キャブレター/エンジンコントロールユニット(ガソリン車)、グローコントロールユニット(ディーゼル車)
 - トランスミッション関係
：オートマチック/マニュアルミッション/4WDコントロールユニット
 - シャーシ関係：ECS/EPS/ABS/ETACS/フルオートエアコン/オートヒーターコントロールユニット/Gセンサー

電波法上のご注意

- ◎本製品は電波法に基づいて、特定無線設備の工事設計についての認証(技術基準適合証明)を取得した業務用無線電話装置です。
ご自分で分解や改造をしないでください。
- ◎免許状に記載されている範囲内で通信してください。
- ◎特に他局の通信を妨害したり、通話の内容を他に漏らし、これを窃用することは、かたく禁じられています。
- ◎免許の有効期限は、免許を取得した日から5年間です。
再免許の申請は、免許の切れる6ヵ月前から3ヵ月前のあいだに手続きをしてください。
- ◎使用できるのは、日本国内に限られています。

放熱について

無線機は長時間送信すると、放熱部の温度がかなり高くなります。
室内で運用する場合は、特に子供や周囲の人が放熱部に触れないようにご注意ください。
また、無線機はできるだけ風通しのよい、放熱の妨げにならない場所に設置してください。

その他取り扱い上のご注意

- ◎本製品の故障、誤動作、不具合あるいは停電などの外部要因により、通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- ◎テレビ・ラジオなどのAV機器や、携帯電話などの電子機器を近くで使用すると、電波障害を受けることがありますので、はなれてご使用ください。
- ◎直射日光の当たる場所に、長時間放置しないでください。
炎天下では、車内の温度が極端に上昇し、本機に悪影響を与えます。
また、真冬は、ある程度車内の温度を上げてからご使用ください。
- ◎車載運用では、バッテリー保護のためにも、一日の使用が終わったときは、必ず本機の電源を切ってください。
- ◎本書の著作権およびハードウェアに関する知的財産権は、すべてアイコム株式会社に帰属します。
- ◎本書の内容の一部または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。
- ◎本製品の仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。

安全上のご注意

安全にお使いいただくために、
必ずお読みください。

- ◎ 使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい注意事項を示しています。
- ◎ 次の『△危険』『△警告』『△注意』の内容をよく理解してから本文をお読みください。
- ◎ お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。

△ 危険

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

- ◎ 引火性ガスの発生する場所では絶対に使用しないでください。
引火、火災、爆発の原因になります。
- ◎ 自動車などの運転中は、本製品を操作しないでください。
交通事故の原因になります。

△ 警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- ◎ 民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、これらの関連施設周辺では絶対に使用しないでください。
交通の安全や無線局の運用などに支障をきたす原因になります。
運用が必要な場合は、使用する区域の管理者から許可が得られるまで電源を入れないでください。
- ◎ 電子機器の近く（特に医療機器のある病院内）では絶対に使用しないでください。
電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。
- ◎ 煙が出ている、変なにおいや音をするなどの異常状態のまま使用しないでください。
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
すぐに電源を切り、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。
- ◎ マイクロホンのケーブルを持って、マイクロホンを振り回したり、投げたりしないでください。
本人やほかの人に当たり、けがや故障、および破損の原因になります。

⚠ 警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- ◎DC電源ケーブルを接続するときは、プラス⊕とマイナス⊖の極性を間違えないように十分注意してください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎DC電源ケーブルのヒューズホルダーを絶対に切断しないでください。
ショートして発火、火災などの原因になります。
- ◎指定以外の電源や電圧を使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎電源ケーブルや接続ケーブルを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、加熱しないでください。
ショートして発火の原因になります。
- ◎長時間使用しないときは、バッテリーや電源装置からDC電源ケーブルを抜いてください。
発熱、火災の原因になります。
- ◎雷が鳴り出したら、機器やアンテナ線、DC電源ケーブルには、絶対に触らないでください。
感電の原因になります。
- ◎DC電源コネクタにホコリが付着したまま使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

⚠ 警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- ◎電源ケーブルや接続ケーブルの上に重い物を載せたり、挟んだりしないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎指定以外のヒューズを使用しないでください。
火災、故障の原因になります。
- ◎指定以外のDC電源ケーブルを使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎分解、改造しないでください。
また、ご自分で修理しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
発熱、感電、けが、故障の原因になります。
- ◎線材のような金属物を入れたり、水につけたりしないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎本製品を使用中は、ぬれた手で本製品に触れないでください。
感電の原因になります。
- ◎車を運転中は、大きな音量で使用しないでください。
踏切の警報や他の車のクラクション、その他の警報が聞き取れず、交通事故の原因になります。

安全上のご注意

⚠ 注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

- ◎屋外に放置しないでください。
故障の原因になることがあります。
- ◎－20℃～＋60℃以外の温度で使用しないでください。
故障の原因になることがあります。
- ◎強い磁界や静電気の発生する場所では使用しないでください。
故障の原因になることがあります。
- ◎湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所には設置しないでください。
また、本製品同士やほかの製品と重ねて設置しないでください。
火災、故障の原因になることがあります。
- ◎各コネクター部に金属片やゴミを付着させないでください。
ショートして発火の原因になることがあります。
- ◎直射日光の当たる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
- ◎ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に設置しないでください。
落ちたり、倒れたりして火災、けが、故障の原因になることがあります。

⚠ 注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

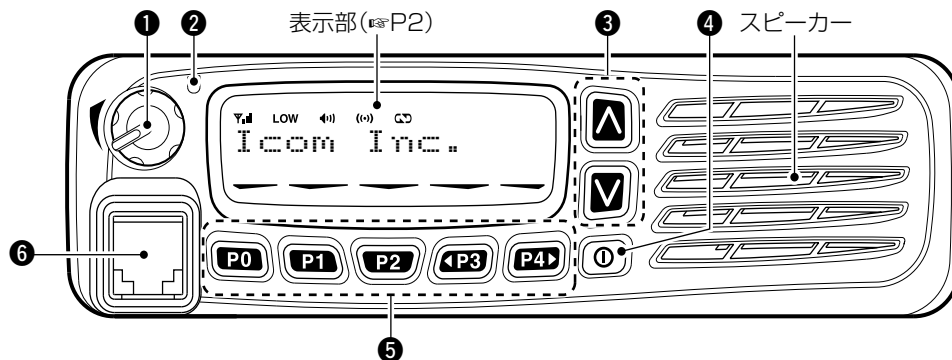
- ◎清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対に使用しないでください。
ケースが変質したり、塗料がはがれたりする原因になることがあります。
普段は、乾いたやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。
- ◎本製品を落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
けが、故障の原因になることがあります。
- ◎本製品の上に乗ったり、物を置いたりしないでください。
落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になることがあります。
- ◎マイクロホンおよび別売品を接続するときは、指定以外の機器を使用しないでください。
故障の原因になることがあります。
- ◎テレビやラジオの近くで送信しないでください。
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。
- ◎周囲の人が放熱器に触れないようにご注意ください。
やけどの原因になることがあります。

⚠ 注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

- ◎DC電源ケーブルや接続ケーブルを抜き差しするときは、必ずプラグの部分を持ってください。
感電やショートして発火の原因になることがあります。
- ◎インバーター内蔵の電子機器の周辺で使用しないでください。
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。
- ◎長時間使用すると、放熱部の温度が高くなりますので、身体を触れないでください。
やけどの原因になることがあります。

■ 前面パネル

**① 音量ツマミ**

受信したときの音量を調整します。

※時計方向に回すと大きくなりますので、聞きやすい音量に調整してください。

② 送受信ランプ

交信の状態を表示します。

- 送信：赤色(点灯)
- 受信：緑色(点灯)

③ アップ/ダウンキー [∧]/[∨]

運用チャンネルを選択します。

お買い上げの販売店であらかじめ設定された機能进行操作します。

([P0]～[P4]キーと同じです。)

④ 電源キー [Ⓚ] (電源)

長く押すごとに、電源をON/OFFします。

※電源ON時は、オートスキップスタート、パスワード入力、プライオリティーチャンネル表示の機能も設定できます。

⑤ プログラマブルキー [P0]～[P4]

任意の機能をお買い上げの販売店にて設定しています。

⑥ マイクコネクター

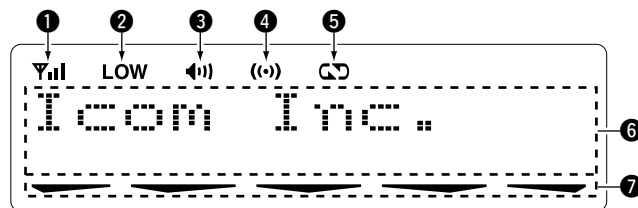
マイクロホンを接続します。(P3)

※接続するときは、「カチッ」と音がするまで差し込んでください。

△注意

指定以外のマイクロホンを接続しないでください。
故障の原因になることがあります。

■ 表示部



① 信号強度表示

受信している信号の強度を表示します。



② 送信出力表示

LOWパワーを選択しているとき表示します。

③ モニター表示

CTCSS/CDCSSミュートが解除されているとき表示します。(P5)

④ コンパンダ表示

コンパンダ機能を使用しているとき表示します。

⑤ 秘話表示

秘話機能を使用しているとき表示します。(P10)

⑥ 運用状態表示

- 運用しているチャンネル番号、チャンネル名称、設定モードなどを表示します。
- 表示する行数は、1行または2行に設定されています。
※設定を変更される場合は、お買い上げの販売店にご依頼ください。なお、本書は2行表示の画面にて説明しています。

⑦ プログラマブルキーの状態表示

[P0]～[P4]キーに割り当てられた、[スキャン 開始/停止]、[スキャン 設定/解除]、[キーロック]が動作しているとき表示します。

1 各部の名称と機能

◇ マイクロホンについて

付属のマイクロホンには、PTTスイッチとハンガーフックがあります。

マイクロホンをマイクハンガーにかけたとき、またはマイクハンガーからはずしたときに、以下の機能を設定できます。

- オートスキャンスタート
(マイクハンガーにかけたとき)
- プライオリティーチャンネル自動選択
(マイクハンガーからはずしたとき)
- CTCSS/CDCSSミュート解除
(マイクハンガーからはずしたとき)

※マイクハンガーが接地されている場合に限ります。

※マイクハンガーの取り付けについては、本書16ページを参照してください。

■ プログラマブルキーについて

[P0]、[P1]、[P2]、[P3]、[P4]、[∧]、[V]のプログラマブルキーには、次の機能を割り当てできます。

※各キーに割り当てされた機能を変更する場合は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

CH Up/CH Down

- ➡ [CH Up]または[CH Down]キーを短く押すと、運用チャンネルを選択できます。
- ➡ [DTMFオートダイヤル]キーを押したあと、[CH Up]または[CH Down]キーを短く押すと、DTMFコードを選択できます。
- ➡ [スキャン 開始/停止]キーを長く押したあと、[CH Up]または[CH Down]キーを短く押すと、スキャングループを選択できます。
- ➡ [CH Up]または[CH Down]キーを長く押すと、連続動作します。

Zone

[Zone]キーを押して、[CH Up]または[CH Down]キーを押すと、ゾーンを選択できます。

Zone Up/Zone Down

[Zone Up]または[Zone Down]キーを押すと、ゾーンを選択できます。

スキャン 開始/停止

➡ [スキャン 開始/停止]キーを短く押すごとに、スキャンを開始/停止します。

※スキャン中に送信したときは、スキャンを一時停止し、一定時間が経過すると、スキャンを再開します。

※初期設定により、スキャンの動作は異なります。

➡ [スキャン 開始/停止]キーを長く押すと、スキャングループを表示します。

[CH Up]または[CH Down]キーを押すと、スキャングループを選択できます。

※スキャングループを決定するときは、[スキャン 開始/停止]キーを短く押してください。

スキャン 設定/解除

[スキャン 設定/解除]キーを短く押すと、スキャングループを表示します。

[CH Up]または[CH Down]キーを押すと、スキャングループを選択できます。

もう一度、[スキャン 設定/解除]キーを短く押すと、お好みのチャンネルをスキャンリストに設定したり、解除したりできます。

※通常画面に戻るときは、[スキャン 設定/解除]キーを長く押します。

プライオリティーCH A/B

[プライオリティーCH A]または[プライオリティーCH B]キーを押すと、プライオリティーチャンネルAまたはBを呼び出します。

プライオリティーCH A/B(上書)

➡ [プライオリティーCH A(上書)]または[プライオリティーCH B(上書)]キーを短く押すと、プライオリティーチャンネルAまたはBを呼び出します。

➡ [プライオリティーCH A(上書)]または[プライオリティーCH B(上書)]キーを長く押すと、運用中のチャンネルをプライオリティーチャンネルAまたはBに設定できます。

1 各部の名称と機能

■ プログラマブルキーについて(つづき)

メモリーチャンネル1/2/3/4

[メモリーチャンネル1]～[メモリーチャンネル4]キーを押すと、運用しているゾーンのメモリーチャンネル1～4を呼び出します。

モニター

スケルチを一時的に解除して、弱い電波をモニターする機能です。

[モニター]キーを押しているあいだは、CTCSS/CDCSSミュートとノイズスケルチを解除します。

※一時的な解除ですので、[モニター]キーをはなすと、ノイズスケルチが動作します。

もう一度、[モニター]キーを短く押す^{注1}、または電源を入れなおすと、CTCSS/CDCSSミュートが動作します。

※CTCSS/CDCSSミュートが解除されているとき、「」を表示します。(P2)

注1) 一定時間が経過すると、自動的にCTCSS/CDCSSミュートが動作するように設定できます。

詳しくは、お買い上げの販売店におたずねください。

Public Address

外部アンプや外部スピーカーなど拡声器^{注2}を使用できるようにします。

➡ [Public Address]キーを短く押すと、Public Address機能をON/OFFできます。

ONにしたとき、[PTT]スイッチを押しながらマイクロホンに向かって話すと、音声が増幅器から出力されます。

➡ [CH Up]または[CH Down]キーを押すと、出力する音量を調整できます。

拡張スピーカー

[拡張スピーカー]キーを押すと、受信した相手の声を本機に接続した外部機器^{注2}(スピーカーなど)から出力します。

出力する音量は、無線機本体の音量ツマミで調整できます。

注2) 後面パネルのD-Sub 25ピンとの接続が必要です。
詳しくは、お買い上げの販売店におたずねください。

バックライト

ユーザー設定モード(☞P11)で、バックライト機能がOFFのときに、[バックライト]キーを押すと、バックライトが約5秒間点灯します。

キーロック

[キーロック]キーを長く押すと、[モニター]、[バックライト]、[キーロック]以外のキーをロックします。

※[キーロック]キーを長く押すと、ロックを解除します。

送信出力切り替え

[送信出力切り替え]キーを押すと、5W(Low1)/10W(Low2)/25W(High)と送信出力を切り替えます。

※初期設定により、送信出力の切り替えかたは異なります。

➡「Low1」が設定されているときは、送信出力の切り替えを無効にします。

➡「Low2」が設定されているときは、「Low1」/「Low2」に切り替わります。

➡「High」が設定されているときは、「Low1」/「Low2」/「High」に切り替わります。

運用チャンネルを変更したり、電源を切ったりすると、元の状態に戻ります。

連続トーンメモリー選択

[連続トーンメモリー選択]キーを押すと、連続トーンチャンネル番号を表示できます。

[CH Up]または[CH Down]キーを押すと、任意の連続トーンチャンネルを選択できます。

※連続トーンチャンネルを決定するときは、[連続トーンメモリー選択]キーを押します。

DTMFオートダイヤル

[DTMFオートダイヤル]キーを押すと、DTMFコードの名称を表示します。

[CH Up]または[CH Down]キーを押すと、任意のDTMFコードを選択できます。

もう一度、[DTMFオートダイヤル]キーを押すと、選択したDTMFコードを送出します。

DTMFリダイヤル

[DTMFリダイヤル]キーを押すと、直前に送信したDTMFコードを送出します。

1 各部の名称と機能

■ プログラマブルキーについて(つづき)

秘話 (P10)

[秘話]キーを短く押すごとに、秘話機能(ボイススクランブラー)をON/OFFします。

コンパンダ

音声通話の明りょう度を上げる機能です。

[コンパンダ]キーを押すごとに、コンパンダ機能をON/OFFします。

フックスキャン (P3)

マイクロホンをマイクハンガーにかけたとき、マイクハンガーからはずしたときにスキャンを開始/解除する機能です。

[フックスキャン]キーを押すごとに、フックスキャン機能をON/OFFします。

※マイクハンガーが接地されている場合に限りです。

※マイクハンガーの取り付けについては、本書16ページを参照してください。

ユーザー設定 (P11)

➡ [ユーザー設定]キーを長く押すと、ユーザー設定モードに移行します。

ユーザー設定モードでは、初期設定されている運用条件を運用する状況や任意の使いかたに応じて変更できます。

➡ ユーザー設定モードのとき、[ユーザー設定]キーを短く押すと、設定項目が切り替わります。

変更したい項目を表示して、[CH Up]または[CH Down]キーで設定内容を選択します。

※変更した内容を設定するときには、[ユーザー設定]キーを短く押します。設定後、次の項目へ移動します。

➡ ユーザー設定モードのとき、[ユーザー設定]キーを長く押すと、通常画面に戻ります。

ご注意

必ず、プログラマブルキーに[ユーザー設定]を割り当ててください。

※割り当てられていない場合、ユーザー設定モードに移行できません。

10キー入力

[10キー入力]キーを押すと、別売品のDTMFマイクロホンのテンキーでチャンネルを選択できます。

■ 電源を入れる

- ① **[⏻(電源)]**キーを長く押します。
 - 設定によっては、ピープ音が約1秒鳴り、オープニングメッセージを表示します。
- ② お買い上げの販売店でパスワードが設定されている場合は、下表を参考にパスワードを入力してください。

キー	P0	P1	P2	P3	P4
数字	0 5	1 6	2 7	3 8	4 9

- ③ 6桁のパスワードを入力しても「PASSWORD」表示が消えないときは、入力したパスワードが間違っています。
電源を入れなおしてから、もう一度パスワードを入力してください。

■ チャンネルの選択

無線機の設定によって、運用チャンネルを選択する方法がいくつかあります。

ゾーンを設定していない場合

[H]または**[V]**キーを押して、運用チャンネルを選択します。
また、**[メモリーチャンネル1]**～**[メモリーチャンネル4]**キーを押して、運用チャンネル1～4を直接選択することもできます。

ゾーンを設定している場合

[Zone]キーを押すと、ゾーン番号表示になります。
[CH Up]または**[CH Down]**キーを押して、ゾーンを選択します。
※ゾーンを決定するには、**[Zone]**キーを押してください。
※ **[ZoneUp]**または**[Zone Down]**キーを押しても、同様にゾーンを決定できます。

オートスキャンを設定している場合

この場合、運用チャンネルを選択する必要はありません。
電源を入れると、自動的にスキャンを開始します。
呼び出しを受信するか、マイクロホンをマイクハンガーからはずしたとき、**[スキャン 開始/停止]**キーを押したときにスキャンが停止します。

2 操作のしかた

■ 送信と受信について

受信操作

- ① [①(電源)]キーを長く押します。
- ② [CH Up]または[CH Down]キーを押して、運用チャンネルを選択します。
- ③ 音量ツマミを回して、聞きやすい音量にあわせませす。

送信操作

- ① マイクハンガーからマイクロホンをはずします。
- ② 信号を受信しているときは、信号がなくなるまで待ちます。
 - 信号を受信しているあいだは、送受信ランプが緑色に点灯します。
- ③ マイクロホンの[PTT]スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって、普通に会話する大きさの声で話します。
- ④ [PTT]スイッチをはなすと、受信状態に戻ります。

マイクロホンに向かって話すときは

マイクロホンと口元を約5cmはなし、普通に会話する大きさの声で話してください。

マイクロホンを口元に近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、明りょう度が悪くなることがありますのでご注意ください。

◇ 送信についてのご注意

送信禁止機能

次のような状態のとき、送信が禁止されます。

- ➡ チャンネルが受信中のとき(設定による)
- ➡ 一致しないCTCSS/CDCSSを受信したとき(設定による)
- ➡ 受信専用チャンネルのとき

タイムアウトタイマー機能

タイムアウトタイマー機能の連続送信時間を超える連続送信後、送信が解除され強制的に受信状態になります。

ペナルティータイマー機能

いったんタイムアウトタイマー機能が動作すると、ペナルティータイマー動作中はつづけて送信できません。

◇ DTMFコードの送信

[DTMFオートダイヤル]キーが割り当てられているときは、DTMF自動送信機能を運用できます。

DTMFチャンネルは最大8チャンネルあります。

- ① [DTMFオートダイヤル]キーを押します。
 - DTMFコードの名称を表示します。
- ② [CH Up]または[CH Down]キーを押して、任意のDTMFコードを選択します。
- ③ [DTMFオートダイヤル]キーを押して、選択したDTMFコードを送出します。

※別売品のDTMFマイクロホンをご使用の場合は、手動でDTMFコードを送出できます。

■ 秘話機能

秘話機能を設定していない相手に、通話内容が盗聴されないようにする機能です。

[秘話]キーを短く押すごとに、秘話機能(ボイススクランブラー)をON/OFFします。

※通話するすべての無線機で同じ設定にしてください。

※本製品標準の秘話機能以外に、別売品のUT-109R^{注1}またはUT-110R^{注2}にも対応しています。

詳しくは、お買い上げの販売店におたずねください。

※機密を要する重要な通話にご使用になることは、おすすめできません。

また、無線機間の通話は、電波を使用している関係上、第三者による盗聴を完全に阻止できませんので、ご注意ください。

■ プライオリティーチャンネル自動選択

下記条件により、自動的にプライオリティーチャンネルAを選択します。

- 無線機の電源を入れたとき
- マイクハンガーからマイクロホンをはずしたとき

※上記の条件が、「プライオリティーCH A移行」で「許可」に設定された場合に限りです。

注1) UT-109Rは、32パターンのコードに対応しています。

注2) UT-110Rは、1022パターンのコードに対応しています。

2 操作のしかた

■ ユーザー設定モード

初期設定されている運用条件を運用する状況や任意の使いかたに応じて変更できます。

- ① **[ユーザー設定]**キーを長く押し、ユーザー設定モードに移行します。
- ② **[ユーザー設定]**キーを短く押し、設定項目を切り替えます。
- ③ **[H]**または**[V]**キーを繰り返し押し、変更したい項目の設定内容を選択します。
- ④ もう一度、**[ユーザー設定]**キーを短く押します。
 - 変更した内容が有効になると、次の設定項目に切り替わります。
- ⑤ 設定が完了したら、**[ユーザー設定]**キーを長く押します。
 - ユーザー設定モードが解除され、通常画面に戻ります。

ご注意

必ず、プログラマブルキーに**[ユーザー設定]**を割り当ててください。

※割り当てられていない場合、ユーザー設定モードに移行できません。

◇ 設定項目

バックライト(LIGHT)

表示部のバックライトについて設定します。

- OFF : 常に消灯
- OFF AT : キー操作時に点灯し、約5秒間操作しない状態がつづくとき消灯する
- DIM AT : 車両のライトスイッチ^{注1}と連動してバックライトを減光する
- DIM : 常に減光
- ON : 電源ON時は常に点灯

LCDコントラスト(CONTRAST)

表示部のコントラストについて設定します。

- 設定できる範囲は、「0(低い)～127(高い)」です。

キー操作時のビーブ音(BEEP)

キー操作時に鳴るビーブ音をON/OFFします。

※タイムアウトタイマー機能などは、この設定に関係なくビーブ音が鳴ります。

注1) 後面パネルのD-Sub 25ピンとの接続が必要です。
詳しくは、お買い上げの販売店におたずねください。

ビープ音量(BEEP)

キー操作時に鳴るビープ音の音量を設定します。

- 設定できる範囲は、「1(最小)～5(最大)」または「1*(最小)～5*(最大)」です。
※「*(アスタリスク)」を設定した場合は、音量ツマミの音量に連動します。

スケルチレベル(SQL)

スケルチレベルの数値が小さいほど、弱い信号でも受信できます。

- 設定できる範囲は、「0(最小)～9(最大)」です。

音量最低レベル(AFMIN)

音量ツマミで音量を最小にしたときの出力レベルです。

- 設定できる範囲は、「0(最小)～255(最大)」です。

マイクゲイン(MIC)

マイクロホンの感度を設定します。

- 設定できる範囲は、「1(最小)～5(最大)」です。

電源ON時の電圧表示(BATT)

電源ON時の電圧表示機能をON/OFFします。

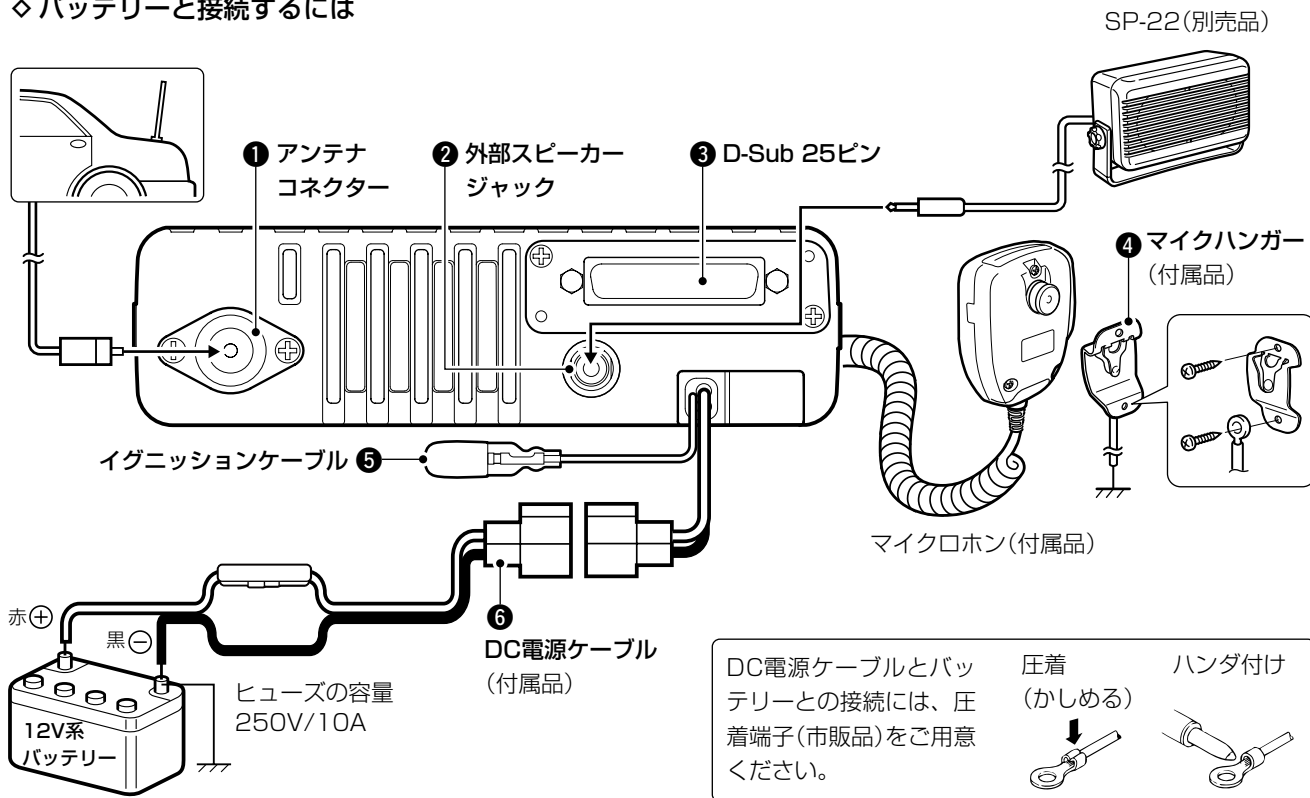
ONにしたときは、電源ON時に電圧を表示したあと、オープニング画面になります。

3

設置と接続について

■ 後面パネルと接続

◇ バッテリーと接続するには



※説明には、付属のマイクロホンを接続する場合の図を使用しています。

① アンテナコネクター

アンテナを接続するコネクターです。

使用するアンテナや取り付け位置などについては、お買い上げの販売店におたずねください。

② 外部スピーカージャック

必要に応じて、外部スピーカー(インピーダンス4Ω～8Ω)を接続するジャックです。

※外部スピーカーを接続したときは、無線機本体のスピーカーは動作しません。

③ D-Sub 25ピン

接続する外部機器などについては、お買い上げの販売店におたずねください。

④ マイクハンガー(付属品)

マイクハンガーが接地されている場合は、マイクロホンのオンフック/オフフック機能が使用できます。

※マイクハンガーの取り付けについては、本書16ページを参照してください。

⑤ イグニッションケーブル

車両のキー操作に連動して本機の電源をON/OFFするときに使用するケーブルです。

※ケーブルには圧力を加えないでください。

DC電源ケーブルに絡めておくことをおすすめします。

※イグニッションケーブルの取り扱いについては、お買い上げの販売店におたずねください。

⑥ DC電源ケーブル(付属品)

12V系のバッテリーを極性に注意して接続してください。

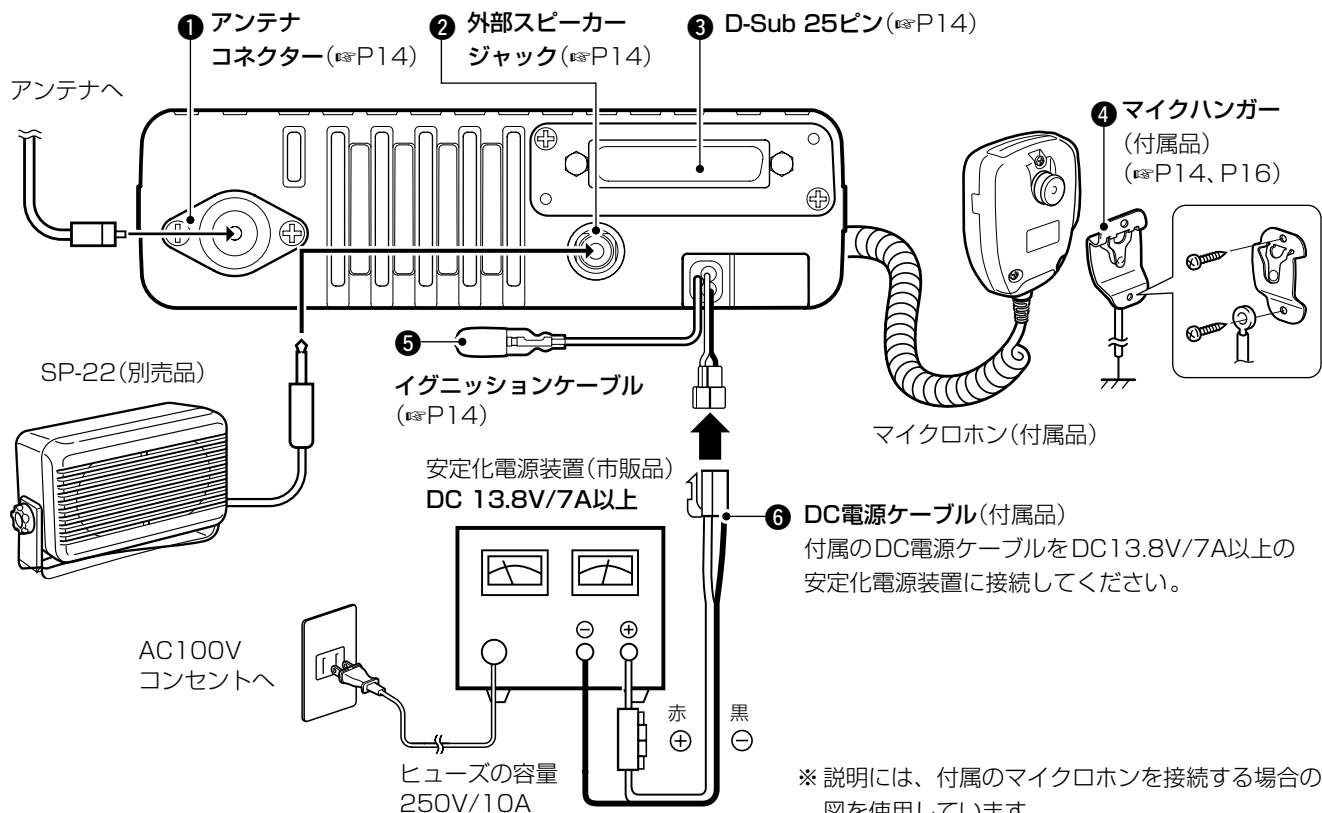
△警告

- 指定以外の電源や電圧を使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- DC電源ケーブルのヒューズホルダーを絶対に切断しないでください。
ショートして発火、火災などの原因になります。

3 設置と接続について

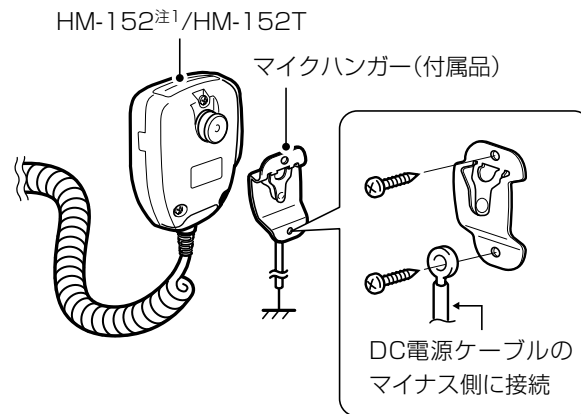
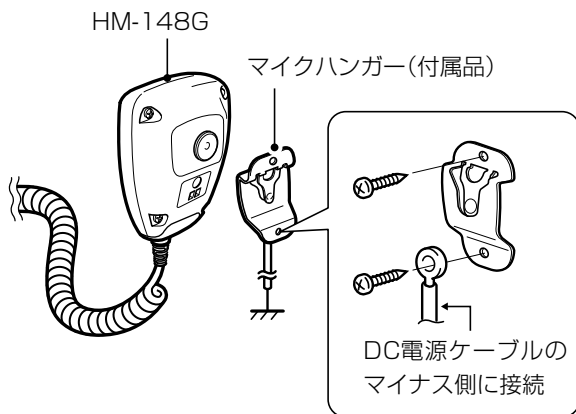
■ 後面パネルと接続(つづき)

◇ 安定化電源装置と接続するには



■ マイクハンガーの取り付けかた

図のように、付属のアース線とマイクハンガーをビスで共締めして、もう一方の端をDC電源ケーブルのマイナス側に接続します。



ご注意

マイクハンガーが接地されていない場合は、マイクロホンのオンフック/オフフック機能が使用できません。

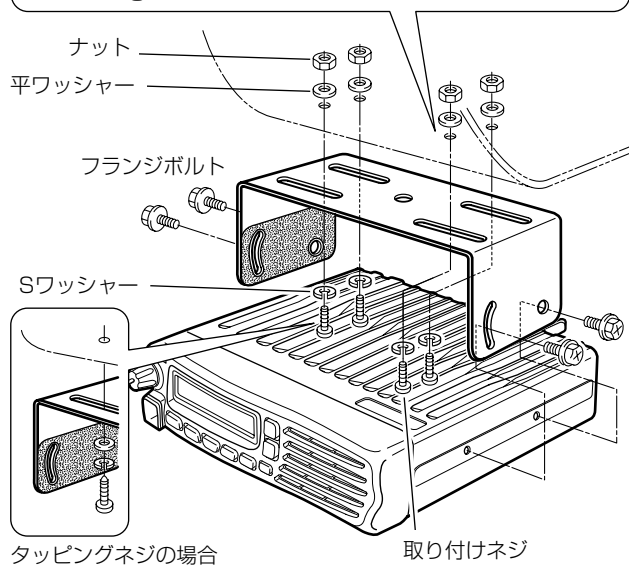
注1) HM-152は、付属品と同じマイクロホンです。

3 設置と接続について

■ 車載時の設置について

付属の車載ブラケットを使用して、ブラケットがしっかりと固定できる場所に取り付けます。

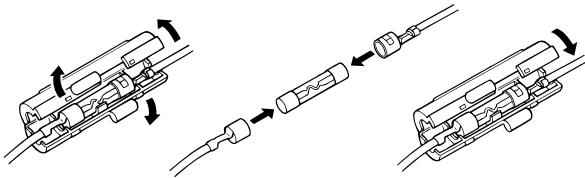
タッピングネジの場合は、あらかじめ約3mmの穴(4カ所)を開けます。
取り付けネジの場合は、約5.5mmの穴(4カ所)を開けてください。
また、1.5kg以上の荷重に耐えられる場所を選んでください。



■ ヒューズの交換について

付属のDC電源ケーブルには、プラス側にヒューズ(250V/10A)を入れています。

もしヒューズが切れて無線機が動作しなかったときは、原因を取り除いたあとで、新品と交換してください。



■ 無線機の清掃について

無線機が汚れたときは、乾いたやわらかい布でふいてください。また、汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤を少し含ませた布でふいてください。

△注意

清掃するときは、シンナーやベンジン絶対に使用しないでください。

ケースが変質したり、塗料がはがれたりする原因になることがあります。

■ 故障かな？と思ったら

下記のような現象は、故障でないことがありますので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。

〈現象〉電源が入らない

〈原因1〉DC電源ケーブルの接続不良

対処：接続を確認する

〈原因2〉DC電源ケーブルの極性逆接続、またはヒューズの断線

対処：電源との接続、またはヒューズを確認する
(P13、P15)

〈現象〉操作しても、表示部の内容が変わらない

〈原因〉ロック機能が動作している

対処：ロック機能を解除する (P6)

〈現象〉音が出ない

〈原因1〉スピーカーの接続不良

対処：接続プラグやジャックにゴミやホコリが付着していないことを確認する

〈原因2〉音量ツマミを左いっぱいに戻している

対処：待ち受け中は、モニター機能を使用したときに出る「ザー」という雑音を聞きながら、音量ツマミを右に回す (P5)

4 保守について

■ 故障のときは

● 保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

● 修理を依頼されるとき

「故障かな?と思ったら」(P18)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

● 弊社製品のお問い合わせ先について

お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先

アイコム株式会社 サポートセンター

0120-156-313 (フリーダイヤル)

◆ 携帯電話・PHS・公衆電話からのご利用は、

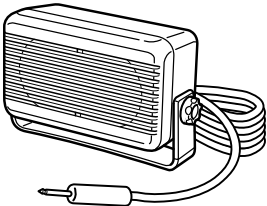
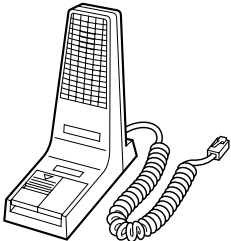
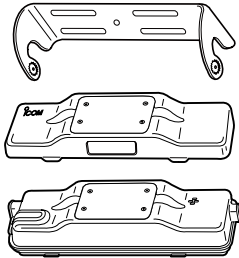
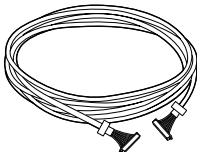
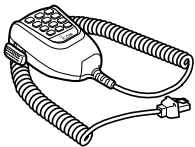
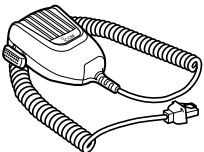
06-6792-4949 (通話料がかかります)

受付 (平日 9:00~17:00)

電子メール: support_center@icom.co.jp

アイコムホームページ: <http://www.icom.co.jp/>

- 弊社製品の故障診断、持ち込み修理などの修理受付窓口は、別紙の「サービス受付窓口一覧」、または弊社ホームページ(<http://www.icom.co.jp/>)をご覧ください。

SP-22 外部スピーカー 	SM-25 卓上マイクロホン 	RMK-3 操作部分離キット 注1 	OPC-607(約3m) OPC-608(約8m) OPC-609(約1.9m) 操作部分離ケーブル ※RMK-3で必要です。 
HM-152T マイクロホン(DTMFタイプ) 	HM-148G マイクロホン (ヘビーデューティータイプ) 	UT-109R(秘話機能用) スクランブラーユニット (非ローリングタイプ) UT-110R(秘話機能用) スクランブラーユニット (ローリングタイプ) 注1) 操作部分離ケーブル(OPC-607/OPC-608/OPC-609)と併せてご用意ください。 取り付けかたは、RMK-3の取扱説明書でご確認ください。	SP-10 外部スピーカー HM-152 マイクロホン ※付属品と同じものです。 OPC-1132 DC電源ケーブル(約3m) ヒューズの容量：32V/20A

■ 別売品についてのご注意

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。
弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障あるいは動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

MEMO

高品質がテーマです。

A-6749H-1J
Printed in Japan
© 2009 Icom Inc.

アイコム株式会社

547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32

株式会社エクセリ(代理店届出番号C1909977) 東京都墨田区菊川3-17-2 アドン菊川ビル4F / 大阪府大阪市中央区久太郎町1-9-5 URL : <https://www.exseli.com/>